

逍遙館長的ところ

「これからの私たちにとっての『黎明』とは、の ところ」

3月25日 逍遙^{（印）}

今年度は今回が最終となり、今、逍遙館長的に思うのは、「幕末・明治維新以来、[抵抗の精神]で今もなお魂の旅路を続ける西郷という存在には、[あるべきリーダーの条件]や[人生の揺るぎない座標軸]等、[不安定で不確定]な現代だからこそ学ぶべきメッセージがあること、また生き残った[体制]の裏側には、[卓越した情報収集・分析力]と[大胆かつ慎重な戦略]、そして[戦いの本質としての謀略]がある一方、心ならずも滅び消え去っていった数多くの言葉なき先人達の魂の遺産もあること」でしょうか。

第4次産業革命が急速に進展し、溢れ出た情報が様々な軋轢や不満を生み、暴力と分断をも厭わぬ現代社会の現実、さらに地球規模の環境クライシスを目の当たりにするとき、逍遙館長的には、「寛容と融合の精神」で、「真の文明」の形を、一刻も早く再構築できないものか、と思ったりもします。

新年度も、ここ黎明館が、今を生きる皆さん方それぞれなりの「黎明」発見のきっかけづくりの場の一つになってくれれば、と願っております。

